

溶連菌感染症

○どんな病気？

溶連菌感染症とは、A群β溶血連鎖球菌という細菌による感染症です。

主な症状

- ・喉の痛み、腫れ
- ・発熱
- ・腹痛、嘔吐
- ・頭痛
- ・頸部リンパ節腫脹
- ・発疹（初日から、あるいは1～2日後に細かい赤い発疹が全身に出る）
- ・イチゴ舌（舌がイチゴの表面みたいにブツブツした状態、2日後ごろ出る）

○潜伏期間：2～6日間

○感染経路：咳、くしゃみ、鼻汁などでうつる飛沫感染です。

○迅速検査法：咽頭（のどの奥）を綿棒でぬぐい、溶連菌がついているかどうかの検査を ます。10～15分で結果が出ます。

○治療

細菌感染なので、抗菌薬で治療をします。

再発や合併症を防ぐため、抗菌薬は途中で止めずに指定の日数を飲みきることが最も大切です。

○合併症

- ・急性腎炎→血尿・蛋白尿、浮腫（むくみ）、高血圧などの症状を認める病気です。
- ・リウマチ熱

○検尿：急性腎炎を合併していないか検尿で確認します。

診断された日から3週間後に検尿をする場合があります。

血尿や目のむくみ、足のむくみがある場合、早めに受診してください。

○登園・登校

抗菌薬を飲み始めて24時間以上経過し、元気になれば登園・登校OKです。

登園、登校許可書が必要です。

○こんなときには再診を

治療が始まって2日以上たっても熱が下がらないとき。